

## 小樽市保育所等の在り方検討について

## 1 はじめに

本市では出生数の減少、少子化に歯止めがかからない状態が続いているが、保育需要は底堅く、近年はそれほど減少していない。一方で、将来に目を向けると、人口減少に伴う保育需要の落ち込みは避けられない見通しである。

保育所等の施設については、市立、民間ともに老朽化が進んでいる建物もあり、また、保育士不足とそれを要因とした入所待ち児童が一定数いる状況において、将来の保育需要を見据えた場合、現状の施設が今後どうあるべきか、その規模や配置などを検討する時期に来ている。

本年度、子ども・子育て会議（ワーキンググループ）からも、様々な角度から御意見をいただいた上で、令和6年度に小樽市保育所等の今後の方向性を決定する予定となっている。

## 2 在り方検討のワーキンググループの構成(案)について

(敬称略)

団体等	(参考)現委員
市民公募	松本 紋子
市民公募	桑原 桃子
小樽地方私立幼稚園連合会	林 勝信
小樽市民間保育協議会	厚谷 弘子
認定こども園	一鐵 岩希
小樽市校長会	伏間 公洋
小樽商科大学	片桐 由喜

## 3 ワーキンググループの資料について

○基礎資料【当日配布】

○関連する計画での位置付け【当日配布】

## 4 ワーキンググループにおいて御議論いただきたい内容

(1) 保育需要と保育所等の配置について

・現状はどうか。バランスがとれているか。

(2) 少子化への対応について

・現状の保育所等の施設数、利用定員はどうなのか。

(3) 施設の老朽化や保育士不足など、課題への対応について

・市立、民間ともに昭和40年代、50年代に建設された建物が一定数あり、また、保育士不足などの課題もある中、今後、どのように対応していくべきか。

など

## 5 その他